

科目名	聴力検査 I			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	15 回	時間数	30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 聴力検査機器の種類や選択方法、操作技術を身につける。								
【実務者経験】 岡山かなりや学園、まな星クリニックにて、言語聴覚士として小児の聴覚障害および発達障害分野の療育に従事する。								
【授業全体の内容の概要】 主な聴力検査機器に実際に触れることで、基本的な知識と技術を身につける。 国家試験に則した基礎的知識を身につける。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 聴覚検査機器の種類と目的を学び、基本的な機器を用いて検査ができる。 検査方法の選択と検査結果の解釈について理解することができる。								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	純音聴力検査の手順や機器についての基本的知識が理解できる。							
2	聴力検査の原則や聴覚の医学について理解できる。							
3	音と聴覚について理解できる。							
4	純音聴力検査（気導検査）実習							
5	聴覚障害型と聴覚補償機器の概要が理解できる。							
6	基本的な補聴器の調製が理解できる。							
7	純音聴力検査（骨導検査）実習							
8	オーゾグラムを書いて平均聴力を求めるとともに、情報を読み取ることができる。							
9	聴性誘発反応の理論や特性について理解できる。							
10	耳音響放射について理解できる。							
11	機能性難聴の検査、耳鳴検査、選別聴力検査などが理解できる。							
12	聴覚機能検査の進め方を理解できる。							
13	補聴器適合検査について理解できる。							
14	小児の補聴器適合検査について理解できる。							
15	まとめ							
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学』第2版 医学書院								
【準備学習・時間外学習】 授業前後に予習復習を行う。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 定期試験において100点満点の試験を行い、60点以上を合格とする。								